

# ながおか・放課後子ども通信

令和5年3月1日発行(vol.5) 長岡市教育委員会 子ども未来部 子ども・子育て課 ☎0258(39)2393

全ての児童館・児童クラブは、子どもたちが「安全」で「安心」でき「居心地のいい」場所を目指し運営していますが、現場からは子どもたちの言葉づかい等で苦勞していると声を聴きます。そんな中学校と連携して課題に向き合っている取組をご紹介します。

## 「当たり前、当たり前」(学校だよりから一部抜粋)

神田小学校 校長 田邊 輝明

「説明を聴く時の話の聴き方、靴を揃えて置くなどが自然にできていて素晴らしい6年生ですね」会津藩校「日新館」の方からいただいた言葉です。修学旅行中、学級担任が見学マナーや過ごし方について指導する場面はほとんどありませんでした。普段の学校生活でも、毎日、計画委員会の子どもたちは児童玄関の日付を変えてくれています。

また、児童玄関の下駄箱にはきちんと揃えられた靴が並んでいます。今回の6年生の姿は「当たり前の延長」であったのかもしれませんが、しかし、一步学校を出て社会の中で学ぶ場面で、普段通りの正しい立ち振る舞いはなかなかできることではありません。これからも神田の教育で大切にしていきたいと強く思いました。

一方で、先日、長岡市教育委員会から次のような連絡が私のもとに入りました。放課後児童クラブ利用の子どもたちのマナーが問題となっている。具体的には、厚生員の皆さんへの言葉遣いや接し方、利用する子どもたちのトラブルが絶えないとのことでした。

その日の昼休みに、利用する子どもたちを集め、私から①放課後児童クラブはおうちの方が仕事などで留守のために、放課後の安全・安心な場所として使わせていただいていること、②目上の人に対しての言葉遣いや接し方について、③理由があっても、人としてやってはいけないこと(友達を叩いたり、蹴ったりすること)を伝え、今までの自分を振り返る時間をとりました。涙を流しながら「やってもらって当たり前だと思っていた。厚生員さんに失礼な言葉を使っていたし、迷惑もかけた。」と反省するお子さんもいました。

今回の件は、全てが子どもたちの問題ではなく、私たち大人が子どもたちと一緒に考えていくべきことであると考えます。他にも同じような場面もあるかと思えます。その時は、ご家庭でも具体的なわかりやすい言葉で「やってもらって当たり前」ではないことを、子どもたちの心にスッと落ちるように伝えていただければありがたいです。子育ては難しいけれど面白い。学校・家庭・地域で子どもたちの健やかな成長を応援していきましょう。



【校舎を濡らさない様に】

## 小学校との連携を生かした児童クラブの運営

神田児童館 専任厚生員 伊丹美弥子

先日、校長先生より児童クラブ利用の子どもたちに日頃のマナーを改めるよう話したと連絡がありました。その日、児童館に来た子どもたちから「自分たちが悪かった」「ごめんなさい」との言葉。その言葉に対して驚きとともにとても感動し涙が溢れました。今後は、私たちも子どもたちがマナーを守ってくれるよう考えていこうと思えました。

## 子どもに意識づける ～ルールに見える化「ピクトグラム」～



「子ども・子育て課」では、児童クラブ・児童館をすべての児童が気持ちよく過ごせる場所にするためにルールに見える化し、子どもたちの指導に生かしてもらっています。

導入時は、放課後子ども総合プラン推進コーディネーターが児童への指導を行います。厚生員さんから、「話を聞いた後、子どもたちの意識している様子が見られる」「集団に対する話し方や場の空気づくりが参考になった」、子どもからは「話を覚えています『使った物は片付ける』ことを気を付けています」「自分のことだと思ったので、人をはいたりするのを気を付けていきたい」等の声が聞かれています。

## 放課後児童クラブと小学校との連携 ～浦瀬小学校と山本児童館～

浦瀬小学校 校長 桑原 東郎

浦瀬小学校の児童クラブ利用率は非常に高い。この現状に、児童クラブ・小学校双方の職員が直接顔を合わせて情報交換する場の必要性を感じ、場の設定を提案、昨年10月、実施した。その際、児童館側から様々な悩みを聞き、小学校として協力できることを考えた。安全に館まで下校できるように、児童館と学校で連携を強化している。また、就学時健診の際に、児童館利用時のマナーについて佐藤館長様からお話いただき、理解を得る機会とした。学校では気づけなかった児童の姿を教えていただける貴重な機会となっている。

山本児童館 館長 佐藤 勝平

児童が地域で安心して楽しく過ごせる環境づくりのために、学校・児童館・家庭そして地域の連携が不可欠と考え、特に学校との連携を図るため次のような取組を行っています。

- 1 児童館と学校で連携し、安全に館まで下校できるようにしています。
- 2 就学時健康診断の際に児童クラブの利用のマナーについて話します。
- 3 行事等で児童の学校での様子を確認します。
- 4 先生と厚生員で情報を共有します。

何より心強いことは、厚生員や主事の方々が仲よく気持ちを一つにして児童を見守って日々行動してくれている姿です。



## 楽しく過ごしています！放課後子ども教室（関原・和太鼓教室）



講師：関原民踊保存会火焰太鼓 吉田 浩樹・安藤 剛

関原放課後子ども教室の太鼓教室は、低学年が対象のため、初めは試行錯誤の連続でした。子どもたちは、すぐ飽きたり、泣いたり、話が解ってもらえないといった状況でした。それでも楽しい時は、目をキラキラさせて太鼓を打っています。

楽しく体験できるように、リズム遊びや音、全身での表現を楽しんでいます。具体的には「やまびこ」と言われる真似をするものです。簡単なリズムから入って、難しいリズムやジャンプをしたり、回ったり、コロナ禍前は掛声も入れていました。慣れてきたら、先生役もやってもらっています。全員が先生役を出来る様に心がけて指導しています。子どもたちに太鼓を楽しんで好きになってもらい、ずっと太鼓を打ってもらいたいと思います。

## 家庭教育支援講座、初のWEB配信でコラボ！

家庭教育講座『親も育つ子育てセミナー』を「長岡市出雲崎町小中学校PTA連合会（市P連）」と共催で“初めて”WEB動画で配信を試行しました。内容は「①今日のネット社会の実態」「②親ができる危険回避の手だて」「③有効活用できるスキルの身に付け方」の3本で、いずれも10分ほどで視聴ができる短編動画の講座です。



市P連では、数年前から、子どもたちを取り巻くメディア環境にかかわり、子どもと親が話し合いをとおして、ゲーム・スマホ・SNSなどメディアの利用に関するルールを決める「市P連ルール」を作成し、各学校・PTAにその活用を呼び掛けています。

講座の講師は、市内外の数多くの学校で、ネット社会にかかわる講演や授業を実践されている、（一財）インターネット協会・インターネット利用アドバイザーの大久保真紀さんです。今回は、普段の講座をWEB配信向けに構成し直し、特別な講座として動画作成に協力をいただきました。

また、配信にご協力をいただいた阪之上小と小国小では、約3週間の配信期間を設け、両校からC4th（学校が保護者向けに一斉に連絡できるシステム）で直接、「子育てに役立つ！メディア&SNS講座」として全保護者にデータを送っていただきました。

アンケートには、「わかりやすかった」「子どもたちと一緒にルールを確認しなければ」「初めて携帯を持たせる親には、とても参考になりました」等が寄せられました。

今回の試行で、市P連と目的を共有し、各学校のPTAに直接繋がることで、家庭教育に役立つ情報をより早く、より広く、よりスムーズに伝えられることが分かり、子育て支援の新たな手立てとなるような気がします。昭和49年スタートの老舗事業「親も育つ子育てセミナー」も、いよいよ令和のICT（情報通信技術）時代突入です！

## 「保護者との接し方とクレーム対応」～児童厚生員全体研修会（後期）～

去る11月29日（火）に「児童厚生員全体研修会（後期）」が開催されました。

講師に蔵王のもりこども園の佐竹直子園長先生を迎え「クレームを言われたい関係性を作ること」「保護者支援の基本は『信頼関係』であること」等々有益なお話をお聞きました。

36名が参加し、満足度は5段階で「4」または「5」が83%と高い評価となりました。



### 《受講者の声》

- ・子どもの気持ちをしっかり聞いてきちんと保護者に伝える事、相手を「想う事」を心がけていきたい。
- ・とても分かりやすく日々の保護者対応時に活用したいと思います。私たちにもできる保護者支援があるのだと胸を張って勤務できます。
- ・近くの方と話す機会があり、参考になることもあり、自分の子どもたちとの関わり方について考える機会にもなりました。

今後も様々な研修を企画しますので、是非、ご参加ください。

研修内容へのリクエストがありましたら、子ども・子育て課へご一報ください。

## “絶品カレーライス”が顔の「しろうまる食堂」

市内、19か所ある  
子ども食堂を紹介

しろうまる食堂は2018年11月に長岡市で4番目の子ども食堂として始まりました。現在は、お弁当（カレー）配布を中心に、状況に応じて食材配布などの活動をしています。「カレーライスと言ったら、しろうまる食堂」という程に、トッピングに工夫を凝らしてカレー作りをしています。地域内外からボランティアさんが駆けつけてくださっています。近隣高校生がとても頼もしい存在です。



開催日：第2金曜日 16時～お弁当販売（事前予約制）  
場 所：四郎丸コミュニティセンター  
料 金：大人300円 子ども100円 未就園児無料

## ～ご存じですか？～ ヤングケアラー（子ども家庭センター）

昨秋の朝日生命保険の調査によると、ヤングケアラーという言葉を知ったことがない人が、まだ3割近くいたそうです。ヤングケアラーとは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもたちのことです。

言葉は新しいけれど、昔から存在したヤングケアラー。でも彼らの状況は、より閉塞的に変化しています。あの「となりのトトロ」も、もしサツキちゃんにトトロや隣のおばあちゃんや周囲の助けが届かない密室の物語だったら、映画は悲惨だったのではないのでしょうか。

周囲にヤングケアラーかな？と思われる子どもを見つけたとき、「相談してもいいんだよ」とトトロのようにニコリ、子どもの心がフカフカ膨らむ交流ができますように。自分はそんな“隣の大人”でありたいです。

皆様、そのような子どもにお気づきの時は、子ども家庭センター（0258-36-3790）へご一報をお願いします。



＜新潟県 広報チラシより＞

## 児童館・児童クラブの運営改善に向けた取り組み（進捗報告）

児童館・児童クラブは開設以来30年以上が経過し、近年、現場（地域）や保護者から様々な相談・意見が多く寄せられようになってきました。

また、総児童数は減少している一方、児童クラブの利用希望者は増加しており、配慮を要する児童対応や、職員の高齢化、事務負担増など、課題が顕著になっていることから、令和3年度に「子ども・子育て会議」内に「児童館・児童クラブのあり方検討ワーキング部会」を設置し、検討を開始しました。

昨年末から2月にかけて、児童館長や現場職員を対象に説明会を実施しました。内容は、「児童」を中心に「保護者」「現場」「地域」「行政」が効果的に連携し、既存のノウハウや人材を生かしつつ、児童を見守れる体制を目指し、アンケート調査結果等から見えてきた課題を解決する方法について説明しました。

今後は、令和5年度の早い段階で具体的な見直し方針を決定し、現場の意見を反映させながら詳細の制度設計を行い、地域・学校等の関係機関とも情報共有しながら、令和6年度に新体制での運用を開始する予定です。

